

島根県公立
小中学校
教頭会

会報

R4.3



今年度を振り返って

島根県公立小中学校教頭会
会長 奥原 千幸

(松江市立鹿島中学校)

今年度も、新型コロナウイルス感染症が拡大する中ではありましたが、県内二百九十四名の教頭先生方のご協力により、島根県教頭会の事業を進めることができましたこと、深く感謝いたします。

令和三年度県教頭会の取組

◆ZOOMの導入について

コロナ禍ではありましたが、第一回の理事会で承認を得た全ての事業を実施することができました。

途中、計画にはありませんでしたが、オンライン会議ができる環境整備のために、全公教の補助を受けてZOOMのシステムを導入しました。試行を兼ね、八月に県教頭会として臨時の理事会を実施し、その有用性を参加理事と確認することができました。

これを機に、要請委員会及び研究委員会、また第二回理事会等の事業を参集型とオンライン型との併用によるハイブリッド型で実施できたことは、コロナ禍における新たな会議の在り方、働き方改革にもつながる取組になりました。

◆隠岐大会について

今年度、第三十四回島根県公立小中学校教頭会研究大会（隠岐大会）を実施しました。

コロナ禍の状況に伴い、参集が困難な状況であることから、第一回理事会において開催方法の検討がなされ、紙面発表に変更しての開催となりました。

開催に向けて、大会実行委員会の皆様、また、各分科会の提言テーマにそった調査研究をご担当いただいた皆様にご心より感謝申し上げます。取り組まれた提言内容の

成果を今後の学校運営の参考にしていきたいと思えます。

◆要請・研究各委員会について

要請部では、今年度の「全国公立学校教頭会実態調査」の結果や十月二十日（水）にオンラインで開催した要請委員会での協議内容をともに、令和三年度の要望書を作成しました。十二月二十七日（月）に、県教育委員会に要望書を手渡した後、懇談会を行いました。県教委からは三名の企画幹にご出席いただき、意見交換を行いました。

研究部では、十二月九日（木）にサンラポーむらくも会場にオンラインを併用して研究委員会を開催しました。活動報告の後、提言発表の前半で、令和三年度中国大会の提言発表の内容を発表いただきました。後半は、令和四年度中国大会の提言発表を見据えた取組状況の報告がありました。参加委員は、前・後半の各分科会に参加し、それぞれに活発な意見交換・協議がなされました。

全公教・中公教の動向

今年度の全国公立学校教頭会の行事は、全てオンラインで実施されました。中でも研究大会（佐賀大会）は、八月三・四日（火・水）の二日間、史上初のオンラインでの開催となりました。一日目の全体会は、記念講演とシンポジウム、

二日目の分科会はZOOMのブレイクアウトルームの機能を活用し、各分科会に分かれて提言・グループ協議・指導講評が行われました。

その他、定期総会や各理事会、研究部長会、要請部長会等もオンラインにより実施されました。中国地区公立学校教頭会においては、研究大会（山口大会）がオンラインにより午後開催で行われました。基調講演を主とし、分科会は紙面にて発表されました。また、全国教頭会同様、全ての会議がオンライン開催となりました。

令和四年度に向けて

来年度の全国研究大会が七月二十八・二十九日（木・金）に岩手県盛岡市で、また中国地区研究大会が十一月二十二日（火）に鳥取県米子市において開催される予定です。

新型コロナウイルス感染症は、今後どのような状況になるか予測できませんが、いかなる状況になっても私たち教頭は研究を実践し、互いに情報を共有し、安全・安心な学校運営に尽力する必要がありますと考えます。是非、前述の研究提言等を生かしていただきますようお願いいたします。

今年度一年間、大変お世話になりました。

各市郡教頭会の活動状況

飯石郡

会長 三原 雄治

(飯南町立頼原中学校)

◇小中学校教頭会研修会の開催
今年度、八月十日(火)に管内小中学校教頭会研修会を飯石郡小中学校教頭会が主管し、飯南町にある島根県中山間地域研究センターで開催しました。

七月後半から全国的に新型コロナウイルスの感染拡大(第五波)が見られる状況でしたので実施判断に迷いましたが、郡(町)教頭会で話し合い、コロナ対策をしっかりとした上で開催することとしました。ただ、このような状況でしたので、どれくらい参加いただけるか心配していましたが、管内の半数近くの教頭先生方に参加していたことができました。

この研修会の目的は次のとおりです。
①管内小中学校教頭の連携を図るとともに、学校教育の振興と会員の職能向上を図る。

②施設の見学や体験を通して、会員の教養を高めるとともに、今後の教育活動の更なる向上の一助とする。

この目的を達成するために、まずは生命地域教育を推進する飯南町に関わりの深い島根県中山間地域研究センターの見学や体験活動を行い、中山間地域の現状・課題

を知るだけでなく、今後の地域発展に関する理解を深めてもらいました。また、この施設の児童生徒の学習の場としての活用を考えてもらえるように次のような研修内容を企画しました。

①研究センターの役割説明

②「くろもじ」の講義と試飲

③研究センターに併設する島根県立農林大学の説明

④VRを使った伐採体験

⑤ドローン操作体験

⑥林業用重機の操作見学

どの研修内容も参加の皆さんには、興味・関心をもっていただけたのではないかと思います。実際に研修後には「大変興味深いものでした」「大変有意義な研修会でした」といったメールをいただきました。

この研修会を通して、先に述べた研修会の目的を達するとともに、飯南町の魅力の一部を感じてもらえたのではないかと感じています。

昨年度から続くWITTHコロナの中で、修学旅行の行き先を県外から県内に変更された学校、やむを得ず中止された学校もあると聞いています。県内修学旅行や遠足をお考えの場合には、大人も子どもも興味が湧くこの研究センターを見学地の候補に入れられるようにと思います。

最後になりますが、私自身、こうした各種研修会等に積極的に参加し、研鑽を積んでいきたいと思っています。

益田市

会長 福原 英忠

(益田市立安田小学校)

◇益田市教頭会の概要

益田市教頭会は、小学校十五校、中学校九校の計二十四校二十四名の教頭で構成しています。コロナ禍においても、研修や情報交換、親睦を深める場として、できる範囲でつながりを大切に活動を進めています。

本会は、昨年度まで、中学校区を中心とした四グループに分かれて活動していましたが、今年度から、「中学校部会」「小学校部会北東グループ」「小学校部会南西グループ」の三つのグループに分かれて活動しています。各グループの活動概要は次のとおりです。

◇中学校部会

十月に、「教頭会の新しいグループ体制の対応」及び「一人一台端末の活用」についての研修会を開催しました。

益田市教育委員会学校教育課の担当指導主事を講師として招き、GIGAスクール構想及びTeams等の活用についての講義並びにそれぞれの中学校における活用状況等の情報共有を行いました。その後、生徒用タブレット端末を使用し、実技講習を行いました。

ICT活用の意義や効果的な活用方法を学ぶ貴重な研修機会でした。

◇小学校部会北東グループ
十二月に、「今年度の各校における取組の振り返り及び次年度の行事計画」についての協議をしました。

工夫して取り組んだ教育活動の成果や、次年度の学校行事の時期や実施方法についての情報交換を行いました。行事の見直しや精選など、今後の働き方改革にも通じるヒントを得た時間となりました。

◇小学校部会南西グループ
十二月に、「二学期制及び三学期制のメリット・デメリット」や「次年度の学校行事」についての協議を行いました。

教職員の事務的な負担軽減や時数確保など、具体的な職員の声から二学期制のメリットについて再認識しました。また、感染症対策を講じた上での教育活動の実践の在り方など、次年度の学校運営に係る貴重な情報共有の場となりました。

◇今後の活動

感染症対策を継続して行う中でも、本会において、学校教育の向上に寄与するとともに相互の親睦を図っていききたいと思います。

隠岐郡

会長 谷田 真也

(隠岐の島町立有木小学校)

隠岐郡教頭会は、小学校十校、中学校六校、小中一貫校一校、計十七校、十八名の教頭で組織しています。

隠岐は四つの島に分かれているため、入会員が一堂に会するのは、年二回の総会に限られます。電話やオンラインによる連絡が主になるため、会の運営に困難を感じているところです。総会は、島前または島後地区において、泊付きの会合を開き、情報交換や会員の親睦を深める機会としています。コロナ禍により会の縮小を余儀なくされています。

【隠岐大会について】

本年度は、第三十四回島根県公立小中学校教頭会研究大会（隠岐大会）を、全県下から多くの教頭先生方に隠岐にご参集いただき開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため紙面発表による開催となり、大変残念に思います。隠岐郡教頭会では、一昨年度より何度も会合を開き、大会実施の可能性を検討してきましたが、離島という特殊な状況を鑑み、参集型の大会開催を断念しました。

隠岐大会では、大会主題「未来

を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の下に六分科会、益田、大田、松江、江津、雲南、仁多の教頭会からご提言をいただき、また、記念講演では、隠岐の國学習センター所長の豊田庄吾氏に、隠岐海士町の人づくりや魅力化構想についてご講演いただく予定でした。

紙上開催となったことから、隠岐大会実行委員会では、研究集録の編集業務を中心に活動してきました。ご寄稿いただいた教頭会の皆様には、厳しい状況の中、研究活動にご尽力いただき感謝申し上げます。お届けが大変遅くなり申し訳ありませんでしたが、掲載しました研究成果を有効に活用していただき、教頭としての専門性を高め、各校での今後の学校運営が一層充実していけることを期待します。

【出雲大会に向けて】

隠岐郡では、昨年度の全国大会（岡山大会）での発表「地域の特性を活かした特色ある教育活動の推進と教頭の役割」知夫村立知夫小中学校におけるふるさと教育の実践を通して」を更に発展させ、令和五年度中国大会（出雲大会）での発表につないでいきたいと考えています。具体的には、「地域の特性と保・小・中の連携を関連させた教育を実践する中での教頭の役割」を追求していく研究を構想しています。

全国大会(オンライン)に参加して

桑山 了子

(奥出雲町立阿井小学校)

今年度の全国公立学校教頭会研究大会は、コロナ禍で初のオンラインによる開催となりました。そのため移動に時間がかからないことから、当初三日間の予定が、より参加しやすい二日間開催となりました。また、事前に二日間にわたりZOOMの接続テストがありました。各分科会を二十グループ編制とし（二グループは十人以上）、各ブレイクアウトルームへスムーズに入室できるなど、入念な準備がされていました。

本大会は、全国統一研究主題を「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」、キーワードを「志」「豊かな心」「未来を切り拓く」、サブテーマを「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」と設定して開催されました。

初日の午前中は、プロ野球広島東洋カープ前監督緒方孝市氏の記念講演「組織を活かすマネジメント」が行われました。ご自身の貴重な経験をもとにお話をされましたが、とても分かりやすく、あつとあつとこの間の時間でした。特にヘッドコーチとしての役割が、私達と共

通すると感じ、参考にした点が多々ありました。例えば、学校全体を見渡し、校長先生の指示を職員に伝えるとともに、様々な要望や意見、時には愚痴を聞いたりと、学校運営が円滑に進む役割を担っているといった点です。

午後のシンポジウムでは、「高い志 豊かな心 切り拓く未来」をテーマに三名の方のお話を聞きました。どの方のお話も大変興味深かったのですが、特に「教育の原点は『こんな人になりたい』という『あこがれ』だと思ふ」という言葉が心に残りました。日々の私たちの姿が子ども達にどのように映っているのかと思ひ、身が引き締まりました。

二日目は分科会でした。私は第六課題の「副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題」、提言主題「魅力ある副校長職・教頭職の在り方」学校の新しい生活様式と働き方改革」に参加しました。初めてのZOOM体験でしたが、佐賀市の先生を司会とし、北は東北地方から南は沖縄県の島までを結び、スムーズにかつ楽しく話し合いや情報交換を行うことができました。

最後になりましたが、とても有意義な研修会であったことを皆様に報告し、今後も教頭として研鑽を積んでいきたいと思ひます。

中国大会(山口大会)に参加して

花田 朋之

(出雲市立荏原小学校)

令和三年十一月十九日(金)に行われた中国地区公立学校教頭会研究大会(山口大会)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン開催となりました。分科会は紙面発表として行われました。

出雲市斐川町教頭会が、第五分科会「教職員の専門性に関する課題」について紙面発表しました。

発表に向けてまずは、斐川町内小中学校六校それぞれの現在の課題について出し合うことから始めました。若手の育成やICT活用、働き方改革等、様々な課題がありました。その中で、不登校への対応が共通する喫緊の課題としてあげられましたので、今回の提言発表テーマを「機能する協働体制の構築に向けた教頭の取組」(不登校児童・生徒への対応を通して)として取り組むことにしました。

不登校傾向の児童・生徒への対応は、校内全体の課題として、組織的に対応していかなければなりません。また、校外の関係機関との連携も図っていく必要があります。

す。校内のみならず校外との連携・調整を図る上で教頭の果たす役割は大きいものがあると思います。

斐川町教頭会は、毎月一回の定例会を開いて、様々な情報交換や研修を行っています。と言っても各校とも多くの校務を担っているため、一時間限定で行っています。

今回のテーマについて情報交換することで、他校の不登校対応への取組のよさを自校に生かすことができました。例えば、初動メモを活用した情報共有の仕組みやS・C・S・Wの活用があげられます。自校での取組の見直しや体制整備につながりました。また、適応指導教室の訪問や指導主事を招いた研修は、その後の外部機関との連携につながりました。しかし、各校で様々な取組や支援を行っていますが、校内での支援会議の時間の確保や別室登校や不定期に登校する児童・生徒に対応する人材の確保など、各課題について改めて認識することにもなり、教頭の果たすべき役割について研修を深める機会になりました。

町教頭会として取り組んできたことで、校区内連携、町内連携がよりスムーズに図れるようになって感じています。

中国大会(山口大会)に参加して

島田 謙一

(津和野町立木部小学校)

十一月十九日(金) 山口市において、中国地区公立学校教頭研究大会(山口大会)がオンラインで開催された。基調提案と分科会提言は紙面発表であった。基調提案の中で心に残ったのは、「魅力ある学校づくり」の延長線上に、「魅力ある地域、魅力ある国」が存在するという主張である。教育は国家百年の計。日々、教室・学校で営まれる教育活動の重要性、我々教師の責任の重さを改めて感じ

た。各分科会の提言も力作が揃っている。貫かれているのは「副校長・教頭として何をすべきか」という点である。どの発表もこの点が押さえられており、この部分を讀んだだけでも日々の職務に活かすことができる。また、どの提言にも共通していたことが、

課題解決を地域社会との協働によって成し遂げる。

という点であった。地域社会との協働は様々な形が考えられる。その形にベストはない。よりベターな形を目指して知恵を出すことが

我々の任務であることを再認識した。

講演はZOOMでの開催となった。講師は、岐阜聖徳学園大学教授の玉置崇氏である。「令和の日本型学校教育を踏まえた教頭の在り方」と題した講演は、今後我々が進むべき道筋を示した大変興味深いものであった。その冒頭で令和の日本型学校教育のポイントとなる三つが示された。

- ① 新学習指導要領の着実な実施
- ② GIGAスクール構想の実現
- ③ 学校における働き方改革の推進

ここに挙げられたテーマは、一つ一つが巨大なものであるが、氏の経験に基づいた具体的な例示が随所にあり、大変分かりやすいものであった。他の参加者からも勤務校で実践したいという声を多く聞いた。講演資料を入手し、一読されることをお勧めする。



要請部活動状況

要請部長 後藤康太郎

(松江市立義務教育学校玉湯学園)

◎全国要請推進部長会

【期日】七月十六日(金)

【会場】リモートによる参加

(松江市立義務教育学校玉湯学園にて参加)

本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため全国要請推進部長会は参集型ではなくリモートによる開催となりました。文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課板倉課長より教育の情報化に関わる講演をいただき、分科会における協議の場でも、各地域の情報化の推進に関わる状況の共有が行われました。なお、全国公立学校教頭会の「文教施策・文教関連立法並びに予算措置に関わる要請」については全公教ホームページに掲載してありますのでご覧ください。

◎第一回要請部正副部長会

【期日】六月二十二日(火)

【会場】松江市立義務教育学校

玉湯学園
◎今年度の活動計画の作成・確認

◎各市郡教頭会宛てアンケートの作成と役割分担

◎第二回要請部正副部長会

【期日】八月二十六日(木)

【会場】松江市立義務教育学校

玉湯学園
◎各市郡教頭会からのアンケート取りまとめ

◎第三回要請部正副部長会

【期日】九月二十一日(火)

【会場】松江市立義務教育学校

玉湯学園
◎今年度の要望事項の原案作成と県教頭会要請委員会及び県教委との教育懇談会の準備・運営方法の確認

◎島根県教頭会要請委員会

【期日】十月二十日(水)

【会場】島根県教育会館

◎県教頭会「教育条件に関する要望書」の内容について、市郡代表要請部員による協議

◎第四回要請部正副部長会

【期日】十月二十日(水)

【会場】島根県教育会館

◎県教育委員会との教育懇談会の資料作成についての作業分担

◎第五回要請部正副部長会

【期日】十一月五日(金)

【会場】松江市立義務教育学校

玉湯学園
◎県教育委員会との教育懇談会の資料作成

◎県教育委員会との教育懇談会

【期日】十二月二十七日(月)

【会場】島根県教育会館

【出席者】県教育庁から三名
県教頭会から九名

【懇談会の内容】

・教職員の定数内欠員及び未補充に対する早急な改善について
・再任用教職員の多様な雇用形態の実現について
・ICTを活用した教育の推進や業務の改善について

☆「教育条件に関する要望事項」を県教育委員会に提出しました。

◎第六回要請部正副部長会

【期日】二月九日(水)

【会場】島根県教育会館

◎県教育委員会との教育懇談会の内容取りまとめ

☆懇談会の内容は県教頭会ホームページに掲載しています。

活動を振り返って

今年度も、県教頭会会員の皆様方から「教育条件に関する要望」についてのご意見をいただき、「令和三年度要望事項」として県教育委員会に提出いたしました。各市郡要請委員の皆様には「要望事項」の作成にご協力をいただきましたこと心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症のまん延も未だ予断を許さない状況が続いています。その様な中で皆様からいただいたご意見をもとに、昨年度から要望してきました感染症対策に関わる要望関連等を整理し、各事項をより焦点化して取りまとめを図りました。

県教育委員会には、それぞれの取組に対して継続して御尽力をいただいております。今後も関係機関との連携をさらに強くし、諸課題の解決に向けて、本会の活動をさらに充実させていきたいと存じます。ご協力ありがとうございます。



研究部より

研究部長 小室 淑子
(松江立第三中学校)

本年度も研究部の活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」のもと、各大会がオンライン開催や紙面発表されました。

一 今年度の取組

○第六十三回全国公立学校教頭会研究大会(佐賀大会)

・期日 八月三日(火) 四日(水)

・オンライン参加 十五名

○第四十一回中国地区公立学校教頭会研究大会(山口大会)

・期日 十一月十九日(金)

・オンライン参加 一三二名

・本県の提言発表(紙面発表)

【第五分科会】

教職員の専門性に関する課題

提言者:花田 朋之 教頭

(出雲市立莊原小学校)

機能する協働体制の構築に向けた教頭の取組(不登校児童・生徒への対応を通して)

【第六分科会】

副校長・教頭の職務に関する課題

提言者:島田 謙一 教頭

(津和野町立木部小学校)

教育魅力化コーディネーターとの連

携う教職員の業務支援につなげて

○第三十四回鳥根県公立小中学校教頭会研究大会(隠岐大会)

・期日 十月十五日(金)

・紙上開催

○鳥根県教頭会研究委員会

・期日 十二月九日(木)

・内容 全国研究部長会等報告

研究大会発表割当

今後の研究大会について

提言発表および協議

半日に縮小しオンライン併用で行いました。活動等報告に続き、ブレイクアウトルームでは、前述の山口大会の発表・協議と、鳥取大会で発表予定の提言について協議を行いました。特に、次年度発表の安来市、邑智郡の研究内容については、各市区での取組の情報交換をしたり研究の方向性について検討したりと、研究部員の皆様に力添えをいただきました。

二 来年度の取組

○第四十二回中国地区公立学校教頭会研究大会(鳥取大会)

・期日 十一月二十二日(火)

・会場 米子コンベンションセンター

○第六十四回全国公立学校教頭会研究大会(岩手大会)

・期日 七月二十八日(木)

・会場 岩手県民会館 他

・期日 二十九日(金)

・会場 岩手県民会館 他

皆様のご参加をお待ちしています。

調査部より

調査部長 藤井 克典
(松江立第四中学校)

新型コロナウイルス感染拡大が治まりを見せてきた令和三年の後半でしたが、変異株「オミクロン株」の発生や度重なる感染拡大により、未だ見通しがもてない状況が続いています。このような中ではありますが、今年度も皆様のご協力により、公立小中学校教頭会の実態調査報告書を発刊することができましたこと、厚くお礼申しあげます。

「働き方改革」に伴う様々な見直しと考えられている昨今ですが、子ども達一人一人のニーズが今までも増して多様化し、保護者や地域から学校に求められるものもより多岐にわたるようになりました。教頭の多忙化傾向は一向に改善されない状況にあり、負担軽減に向けた環境づくりについては、今後も継続的に取り組んでいくことが必要です。

ご回答いただいた調査結果は今年度も県教頭会要請委員会等で報告し、協議のうえ方針を決め、次年度の各方面への要請活動につなげてまいります。

今後、的確な現状把握のために調査協力いただきますとともに、各市区等で調査結果を有効に活用していただきますようお願いいたします。

事務局より

事務局長 川上 淳一
(松江立八雲中学校)

本年度の本会の事業も、県内の教頭先生方のご協力により滞りなく終わろうとしています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で各大会の開催方法の検討が図られました。新たにオンライン配信による開催という今後の大会運営に大きな可能性を見い出せた年でもありました。未だ予断を許しません。今後とも本会活動へのご支援・ご協力をお願いします。

新年度準備の多忙期となります。皆様のご健勝をお祈りします。

鳥根県公立小中学校教頭会事務局長

松江立八雲中学校

〒690-2103 松江市八雲町西岩坂九三二

TEL (〇八五二) 五四一〇〇一四

川上 淳一

鳥根県公立小中学校教頭会事務局

〒690-0886 松江市母衣町五五

TEL FAX 〇八五二 二七一八六八〇

鳥根県教育会館内

事務局長 黒田 真喜子

(勤務日) 月(金) (勤務時間) 九時~十五時

ホームページアドレス

<http://simatou5.web.fc2.com/index.html>

E-mail simatou5@galaxy.ocn.ne.jp

